

日本平山山行記録



目的地	日本平山（早出川ダム～山頂）	期 日	平成 16 年 1 0 月 2 4 日（土）
山行人	笠原正雄単独	特 記	Y.H.C「かたくり」の五十嵐氏の記事から注目した山

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 4:30 発	小雨	木六山と同じ道。暮坪バス停から直進して早出川ダムへ。
早出川ダム P	6:00～6:20	〃	2 台あり。水洗トイレ。2 人先行して行く。傘歩行（5 分で雨あがる）。
山 の 神	6:42	曇	ダム湖に沿った道からあがって左折。祠にセンベイが供えてあった。
展 望 台 地	7:00	〃	溪流の右岸の急傾斜をへつった道、慎重に歩かなくてはならない。ここからの渓谷の景観は素晴らしい。遭難か？ 缶酒と枯れた花 2 差しがある。
小さい沢を渡る	7:05	〃	急降下から小さい沢。小沢は 3 回ほどある。ザレた斜面道は要注意だ。
金ケ谷沢徒渉	7:25～7:30	〃	ストック支持で石伝いに渡る。1 歩はくろぶし迄水に入れなければならなかった。渡って休憩。ここ迄は標高稼ぎ無し。この後ロープ付き急登へ。
駒 の 神	7:45～7:50	〃	岩の壁もある右トラバース道から尾根に上がる。急左折。丸子方面分岐の標示。尾根を進むにつれて、六三郎沢の音の方が大きくなって来る。
ト コ ヤ	8:45～8:55	〃	尾根道の急登は松からブナへと樹相が変わって行く。尾根からはずれ傾斜が緩んで茶土裸地の丘。「ここはトコヤです」の看板が割れ落ちている。
岩 稜 ピ ーク	9:50	〃	草道ののち気分の良いブナ林を少し登り、大きく降りてから登り返して尾根道へと続く。ようやく左右が見渡せる。ガンガだろうか、標示は無い。山頂が見える。一部岩稜歩きは快適だ。この後灌木帯の急登へ。
山 頂	10:15～11:05	〃	急登ののち藪の中の平坦路を経て山頂、ここも看板が落ちている。石のカエルと三角点。直前、左に谷沢からのコースと合わせる。少なくとも先行 2 人がいるものだと思っていたのだがコケ採りだったのだろうか、誰もいない。曇っていて寒いが、微かな青空から差しす陽に映える向かいの山が、まるでアルプスかと思われるように見える。発泡酒とパン・ポタージュ。
ト コ ヤ	12:10	〃	山頂から平坦藪を経てからの急降下は、上山時に感じた以上のものだった。時折日差しが出て来るので、何度も振り返り紅葉を楽しむ。ただしこちらが望む所を照らしてはくれない。この後の尾根道で上山夫婦と逢う。
駒 の 神	12:55～1:05	〃	山の幸採りザック 1 つ。すぐに地元男現る。「松茸一、わからねえ一な」。山ビルや銀次郎やらの話を聞く。鈴を鳴らして先に行く。
山 の 神	1:55	〃	少しの時間雨が当たりヤッケと傘で歩く。
早出川ダム P	2:10～2:20	〃	与板着 4:00（片道 62 km）

ダムと V 字の渓谷添いの道で 1 時間を要する。その間が気を抜けない。しかしその景観は今まで味わったことが無い。ガンガらしき尾根に出ると左右に景色が望め、紅葉が時期だ。曇天が惜しまれる。8 月山行の木六山が形良く見えた。頂上でもそうだったが、他は何山か分らない。長い山歩きだ。しかし色々な要素を兼ね備えた登山道であった。この日は 5 時頃に成願寺温泉へ行き、細貝研 OB 会に出席した。宴会開始 10 分で新潟中越地震に遭遇する。大変な夜となった。もしも渓谷の道で揺れに出くわしたとしたらと思うとゾットする。